

## パワーアップ研修研究授業を終えて

### 【パワーアップ研修研究授業（第1回～3回）での取組み・工夫点】

- ① 条件（使用する言葉を選択肢として挙げる）や例文に従い、本文に根拠を求めながら文章を書かせる。
- ② 学習内容に対する自己評価や振り返りをさせる。
- ③ 構成や要点を整理するために、視覚化させる。
- ④ 個で考える時間とグループ（ペア）で意見交換をする時間を、状況を見ながら設定する。
- ⑤ 生徒の答えを予想しつつ、生徒に考えさせたい内容を精選する。
- ⑥ 学習到達レベルの差に考慮して、発展問題の準備（発展的な思考のきっかけとなる発言）をする。
- ⑦ 話の面白さを理解し、作者の意図を掴むため、虚構化（フィクション化）という視点で作品を読ませる。

### 【パワーアップ研修研究授業での取組み・工夫点（上記①～⑦）における効果】

- ① 条件や例文を示すことにより、書くことに苦手意識のある生徒も取り組みやすそうだった。
- ② 評価する項目を示すことで、何を学習するのか見通しを立てて授業に参加することができていた。また、振り返りをするすることで、学習に主体的に臨んだという達成感を味わい、今後の国語の学習に対する目標を立てたり意欲を感じたりすることができていた。
- ③ 文章の要点が何かを考えることで、筆者の考えを再確認し、頭の中を整理することができていた。
- ④ グループ（ペア）で意見のやり取りをすることで、自分の考え他者に伝える工夫をしたり、新しい発想を共有したりすることができていた。
- ⑤ ある程度的を絞って、生徒の答えを誘導することで、授業の展開をスムーズにできた。
- ⑥ 興味・関心のある生徒は発展問題まで自主的に考えており、その生徒の発言を受けて他の生徒もより深い次元まで考えるきっかけをつかめていた。
- ⑦ 古典作品に対して苦手意識がある生徒でも、より深く作品理解する活動に積極的に参加することができていた。

### 【今後の課題】

今回の研究授業での取り組みは、現代文分野と古典分野ともに応用できる活動実践（A）と、ルーブリック評価の活用（B）を意識したものであった。（B）に関して、評価項目の精選や文言の工夫、毎時間の授業での活用を今後も重ねていきたい。そのために、生徒の実態を把握し、学習を通して生徒に身に付けさせたい力を意識しながら授業研究に努めたい。